

令和5年4月20日開催 和泉市教育委員会意見交換会並びに事前報告会要旨

出席者 小川教育長、深堀職務代理者、酉家教育委員、久米教育委員、中西教育委員、小谷教育委員

教育委員会事務局 土本教育次長、辻部長、上田指導監、鍛冶次長、阪下室長、西田室長
仲谷課長、橋本課長、岩井参事

	議題	要旨
案件1	(仮称) 槇尾学園 令和7年度特認校児童生徒募集事前申込及び学園説明会について	<p>○令和7年4月開校予定の(仮称) 槇尾学園は、特認校制度を導入し、市内どの校区からも就学可能な学校とし、魅力ある教育により児童生徒を広く募ることとしている。児童生徒の募集にあたっては、南横山小学校の特認募集と合わせて(仮称) 槇尾学園のイメージを広報に掲載するなど取り組みを進めている。</p> <p>○魅力ある教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級(1学級20人程度) ・豊かな自然を活かした学習(自然体験活動や情操教育、環境学習等) ・地域資源を教材にした独自教科「槇尾学」(大学との連携やPBL(課題解決型学習)による実施等) ・授業時数特例校(英語) <p>○事前申込について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特認児童生徒の確保、円滑な開校を目的として、令和5年度から事前申込の受付をスタートする。 ・令和5年度：年間2回の募集を予定 募集予定定員に達した時点で募集は停止 ・令和6年度：定員に達していない学年について募集 ・令和7年度：(仮称) 槇尾学園へ転入学 <p>●委員の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある児童が他の学校ではできないことが、(仮称) 槇尾学園では出来るなど、ポジティブな何かがあればよりいいと思う。 ・募集の際には、できるだけ具体的な内容がわかるようにしたほうが良い。 ・南横山小学校の特認制度が成功しており、(仮称) 槇尾学園はそのステップアップと捉えている。

<p>案件2</p>	<p>「和泉市立青少年の家」における今後の進め方について</p>	<p>○これまでの経過 令和4年7月から令和5年3月にかけてアンケートやワークショップ、他施設の調査等を行ったうえで、施設活性化・改修計画（案）を策定した。</p> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より具体的な利用者ニーズの聴取による、更なる改修計画の精査 ・市の財政状況も踏まえた、改修内容や実施時期等の精査 ・施設の老朽化が顕著であることから、できる限り早期の改修が必要 ・ハード・ソフト両面での施設活性化策の検討 <p>○今後の取組内容 改修内容の精査に関する取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有識者や民間企業も交えたシンポジウムの開催 ・類似施設の視察 ・幅広い層へのニーズ調査 <p>最終的な改修の実施内容及び時期等については、和泉創発プランにおける収支状況を鑑み決定していく。</p> <p>●委員の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改修の計画においてどの部分を改めて検討するべきかの精査が必要 ・マーケティングやソフト面の検討や提案が重要 ・ニーズがないものを作っても意味がないので、どの世代のニーズに答えていくのか精査することが重要 ・青少年育成をメインとするのか、全世代に向けたものにするのかを明確にする必要がある ・収益だけではない、子どもたちの成長や企業研修などでメリットを感じてもらえるなどお金に変えられない成果をアピールすることも重要 ・ネーミングを検討するのも利用者に認識してもらう一つの手段である
------------	----------------------------------	--